

田口短大学長（常務理事）・短大教員らが ミャンマーで医科歯科医療支援を実施

6月3日から8日まで、田口智章福岡医療短期大学長（常務理事）、黒木まどか准教授、井上庸子講師、中村美貴歯科衛生士らが、ヤンゴンの小児医療専門施設の病棟や養育施設にて医療支援を実施しました。

田口学長は、以前より発展途上国の医療支援をしている特定非営利活動法人を通じて、ミャンマーで小児外科手術などを行っています。滞在期間中、外科チームは、胆道閉鎖症、仙尾部奇形腫、肝芽腫など11件の手術、現地医師への手術指導、研修医への講義等を行い、人材育成にも努めました。

また、田口学長は長年支援を行う中で術前後の患者への口腔ケアが課題であると感じており、現地の要望も受け、今回歯科チームの帯同が実現しました。

帯同した黒木准教授（歯科衛生士）、井上講師（歯科医師）、中村歯科衛生士は、現地の歯科医師とともに、病棟や養育施設にて口腔診査、歯磨き指導、フッ素塗布などを200名を超える子どもたちへ実施し、口腔ケアの重要性を広く伝えました。

福岡医療短期大学では、今後も教員や学生に国際医療の現場を経験できる機会を提供し、グローバルに活躍できる歯科衛生士の育成を目指していくこととしています。



口腔ケアの指導をする黒木准教授（右）、中村歯科衛生士（中央）



口腔診査をする井上講師（左）



現地の小児外科医へ手術指導する田口学長（左）

〈活動実績〉

	外科チーム（田口、猪股、林田）	歯科チーム（井上、黒木、中村）
6月3日	カンファレンス（肝移植後、術前）、診察、超音波検査	カンファレンス参加、肝移植後口腔診査、フッ素塗布
6月4日	手術：胆道拡張症、胆道閉鎖症、ウイルス腫瘍（右）	外科病棟 口腔診査61名、歯磨き指導61名
6月5日	手術：肝芽腫（左）、胆道閉鎖症、胆道拡張症、肝嚢胞（肝未分化肉腫疑）	血液腫瘍病棟 口腔診査28名、歯磨き指導28名
	外科病棟回診	歯科外来診療見学と手伝い
6月6日	猪股講義（胆道拡張症、胆道閉鎖、肝移植）	病棟患者の口腔内情報提供と矯正カンファレンス
	田口講義（ヒルシュスプルング病と類縁疾患）	外科講義参加
6月7日	手術：肝芽腫（右）、カロリー病胆道閉鎖症	午前：外科病棟口腔フォローアップ回診26名
	仙尾部奇形腫2例	午後：ドリームトレイン（養育施設）口腔診査40名 歯磨き指導40名 フッ素塗布40名
6月8日	病棟回診（術後患者対象）	ドリームトレイン（養育施設）口腔診査80名 歯磨き指導80名 フッ素塗布30名

医科歯科総合病院 こどもの食事 サポート外来を 開設

福岡歯科大学医科歯科総合病院小児科では、新たにこどもの食事サポート外来を開設しました。

こどもの食事サポート外来では、偏食や少食など、食事に関するお困りごとを持つ就学前のお子さんに対して、成長に必要な量・内容の食事をとることができるよう評価指導を行います。

お腹が空いたことを知らせない、十分な量を飲んだり食べたりしない、食事時間に極端な偏りがあるなど、就学前のお子さんの食事に関してお困りの点がございましたら、ぜひご相談ください。

医科歯科
総合病院



歯科衛生士研修支援センターキックオフセミナーを開催

4月28日、50周年記念講堂において福岡医療短期大学歯科衛生士研修支援センターキックオフセミナーを開催しました。

馬場篤子センター長よりセンターの紹介があった後、水田祥代理事長の基調講演をはじめ、3名の方々に、それぞれの立場からこれからの歯科衛生士が果たす役割について講演いただきました。当日は歯科衛生士の資格を持つ人々を中心に143名の参加がありました。少子高齢社会における歯科衛生士の重要性を改めて認識するセミナーとなりました。

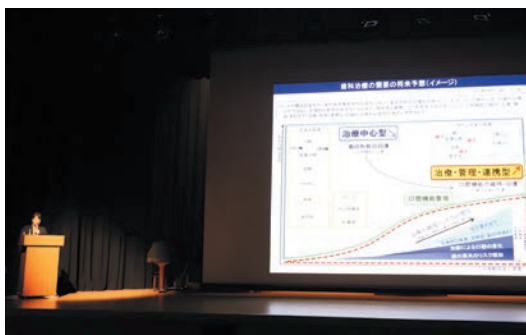
今後、センターでは関係機関と連携を図りながら、令和6年度の研修プログラムを順次実施し、歯科衛生士が自信を持って働くためのサポートを行っていきます。



②センター紹介
馬場 篤子センター長



①開会の辞
田口 智章短大学長



④【講演】
「近年の歯科保健医療の動向と歯科衛生士の役割について」
大坪 真実(厚生労働省医政局歯科保健課 課長補佐)



③【基調講演】
「輝いて美しく 女性医療人へのエール」
水田 祥代(学校法人福岡学園 理事長)



⑥【講演】
「就業場所別にみた歯科衛生士の役割」
久保山 裕子(公益社団法人日本歯科衛生士会/一般社団法人福岡県歯科衛生士会 副会長)



⑤【講演】
「歯科界の未来のために」
比嘉 奈津美(参議院議員・歯科医師)